

2017年版 学習指導要領 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の推進

明星大学 相原 雄三

I 学校の教育目標と「カリキュラム・マネジメント」

◎学校教育の目的・責務とは？

学校経営・学校運営の理念

ある中学校の「学校ホームページ」の校長挨拶(一部抜粋)より



本校の教育目標は、「学ぶ・鍛える・思いやる」、実にシンプルかつ明確です。この目標が学校生活の中で、具体的に実現できるよう取り組んでいくことが、我々の使命です。

学校の主人公は間違いなく生徒です。その生徒が様々な分野で活躍し、豊かに成長できるようにするのが、学校・教職員の務めです。

子供たち一人一人は、各ご家庭の大事な「宝」であるとともに、日本や世界の将来を担う、とても大切な存在です。そのことを常に念頭におき、日々の教育活動に取り組んでいます。

★「学校の教育目標」の実現

教育課程の編成 (PLAN) - 実施 (DO) - 評価 (CHECK) - 改善 (ACTION)

I 学校の教育目標と「カリキュラム・マネジメント」

第1表

4 武蔵小舎第 143 号
令和 5 年 3 月 13 日

武蔵野市教育委員会 殿

学校名 武蔵野市立第四小学校
校長 濱辺 理佐子 印

令和 5 年度教育課程について（届）

このことについて、武蔵野市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

国際社会の中で多様な他者と協調しながら新たな価値を創造し、すすんで社会に貢献する人間性豊かな児童を育成するために、教育目標を次のように設定する。

- たくましい子 ◎よく考える子（本年度の重点目標）
- 思いやりがある子 ○進んで働く子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 「たくましい子」は、自らの人生を切り拓く。

強い心と体をもち、他者と共生するための社会性が身に付くよう、困難な状況でも主体的に問題を解決する意欲や自信をもって取り組む態度を育む教育活動を推進する。

イ 「思いやりがある子」は、多様な他者と共感・協働する。

命を大切にし、互いに尊重し敬愛し合う心情や態度が身に付くよう、多様性を生かした教育活動を推進する。

ウ 「よく考える子」は、これからの時代に求められる資質・能力をもつ。

よりよい地域・社会づくりに参画する資質・能力が身に付くよう、学びに向かう力を育てる探究的な学習を充実させ、市民性を育む教育活動を推進する。

エ 「進んで働く子」は、よりよい未来の創り手となる。

母校や地域を愛し、地域社会の一員として自らの力を最大限に発揮することができるよう、社会に貢献する力を育む教育活動を推進する。

第2表の1

学校名 武蔵野市立第四小学校

2 指導の重点（◎は学校として特に重点を置く取組）
(1) 各教科等



に向け、「見方・考え方が働く展開のあひ化を図るとともに、学力調査の結果を踏指導の改善、充実にも努める。学習指導で児童に自信や達成感をもたせ、学びに活用コンピュータや同時双方向型の通信の考えを発信したり、探めたりするよう性的、創造的に学習者用コンピュータ教育を推進し、ICTを適切、安全に活に際したプログラミング教育を適切に思考の育成を図る。

「自立」「協働」「社会参画」をキーワードに、活動の様子や児童の発言を詳細し、市民性を育成する教育を実施し、「自立」力を育成する。

また、活動の様子や児童の発言を詳細し、市民性を育成する教育を実施し、「自立」力を育成する。

また、活動の様子や児童の発言を詳細し、市民性を育成する教育を実施し、「自立」力を育成する。

回り、読書周物の教科道イ 児童の発達段階を踏まえた指導を推進し、道徳教育推進全体を通して、命の大切さやいの違いへの理解ウ 児童の考えを育み、改善を図る。道徳授業地区との共通理解ウ 外国語活動及び外国語活動に際した指導法を継承し、こと「読むこと」を育成する。

○A I T の協働的な学習活動や小学を通じて、児童が英語で表現すること総合的な学習の時間エ 英語を構造的に活用し、コミュニケーションを図る。課題解決しながら自ら考え、表現する力、コミュニケーションを図る。課題解決しながら自ら考え、表現する力、コミュニケーションを図る。課題解決しながら自ら考え、表現する力、コミュニケーションを図る。

◎多様な人々と豊かに関わる活動を通じ、課題解決しながら自ら考え、表現する力、コミュニケーションを図る。課題解決しながら自ら考え、表現する力、コミュニケーションを図る。

◎地域の学習材を活用し、自然環境・環境問題を大切にし、持続可能な社会の特別活動オ 誰もが安心して過ごせる学校づくり発達と個性の伸ばしを図り、よりよい



II 資質・能力の育成と「カリキュラム・マネジメント」

2017年版 学習指導要領

「第1章 総則 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割」のところに記載

3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通して、**どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図るものとする。**

4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、

① **教育の目的や目標の実現**に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、⇒[カリキュラムデザインの側面]

② **教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと**、⇒[PDCAサイクルの側面]

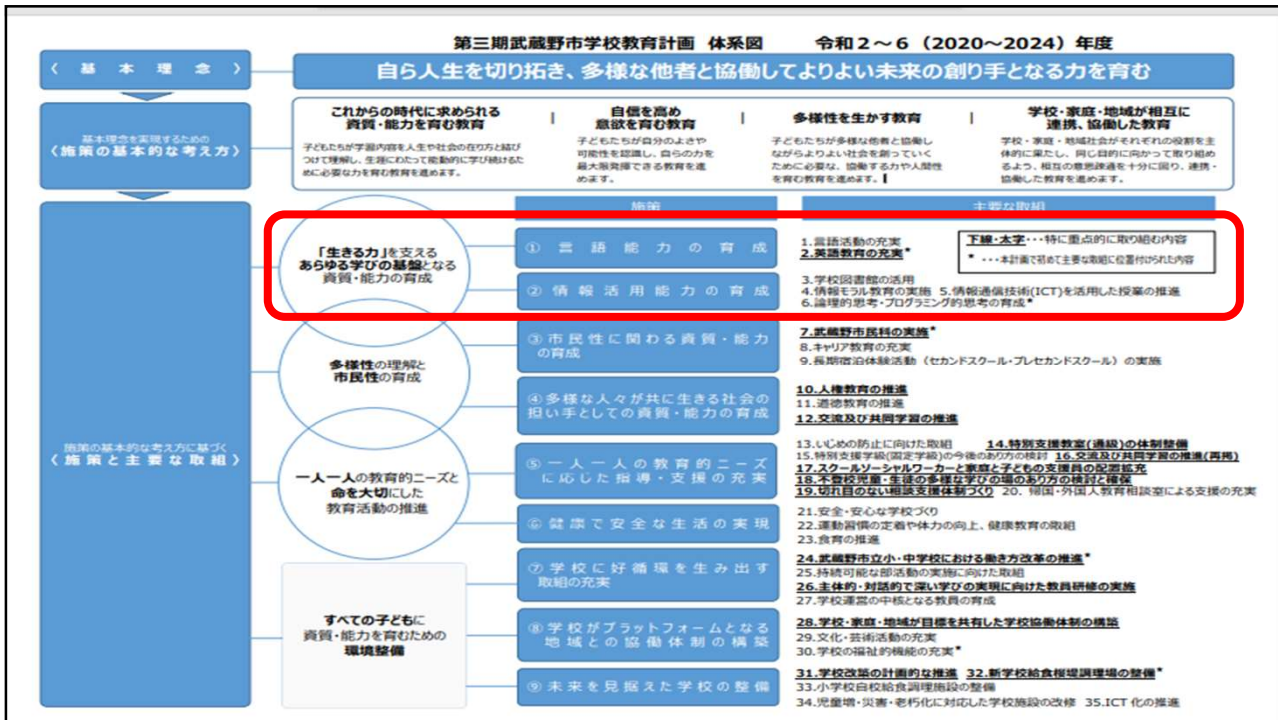
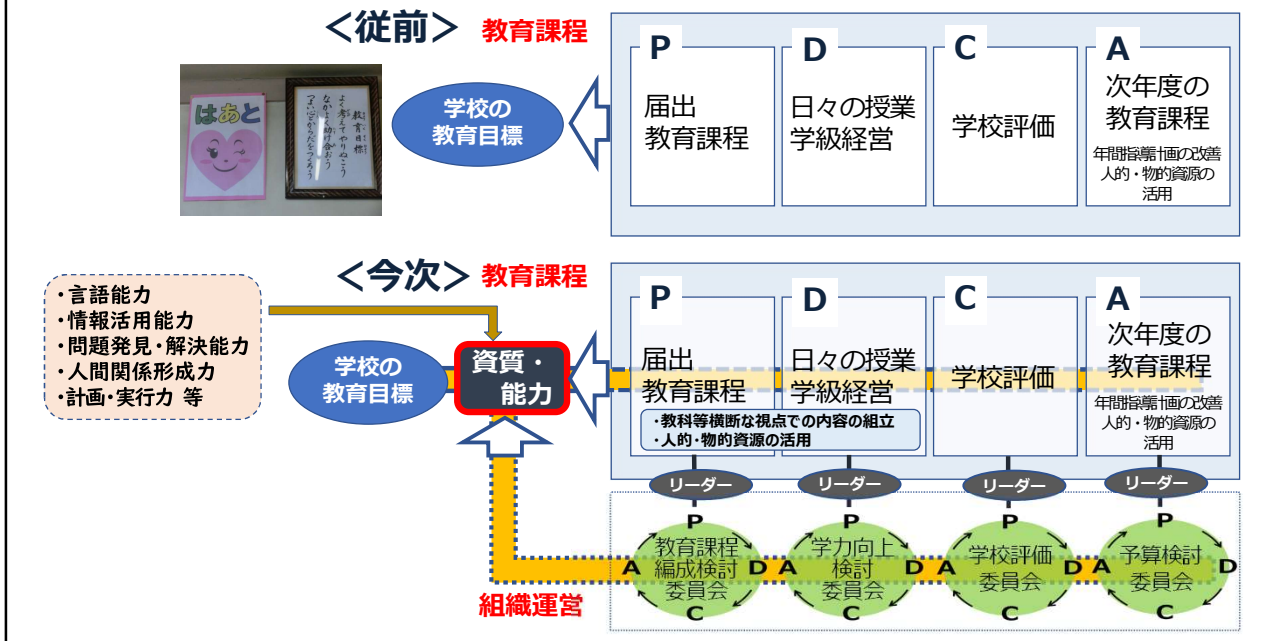
③ **教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともに**

その改善を図っていくことなどを通して、⇒[内外リソースの側面]

教育課程に基づき組織的かつ計画的に、**各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと**

(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

II 資質・能力の育成と「カリキュラムマネジメント」



Ⅲ 「カリキュラム・マネジメント」の具体的な取組に向けて

① 「育てたい資質・能力」をどのように各学校において明確にするのか？

- 各種学力調査
- 運動・体力調査
- 保護者や地域住民の意向
- 社会の動向 等

＜今次＞

教育課程

学校の教育目標

資質・能力

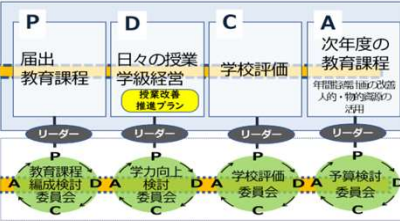
組織運営

リーダー

リーダー

リーダー

リーダー



学習指導要領 第1章 総則 第2 教育課程の編成

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 学習の基盤となる資質・能力の育成

⇒ (例) 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力
人間関係形成力、計画・実行力 等

(2) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成

⇒ (例) 健康・安全・食に関する力
主権者として求められる力
新たな価値を生み出す豊かな創造性
豊かなスポーツライフを実現する力 等

A小の【学校の教育目標】と資質・能力

- よく考えて 学習する子 思考力、判断力、表現力
- すなおで 心豊かな子 新たな価値を創造する力
- 進んで動き 協力する子 **他者と協働する力**
- 健康で がんばりぬく子 主体的に計画・行動する力

大企業が大卒者に特に期待する資質・能力（経団連調査/2021年版）

経団連では10年以上前から、会員企業に対して新卒採用に関するアンケート調査を実施していますが、その中で大卒者に特に期待する資質や能力についても聞いています。

この度、2021年度のアンケート調査結果が発表されましたので、これまでの調査結果とも比べながら、大企業が新卒採用で求める人材像を見てみましょう。

今回の調査から「特に期待する資質と能力」とに分けて聞いており、「特に期待する資質」は下記のような順になっています。



- 第1位：主体性 (84.0%)
- 第2位：チームワーク・リーダーシップ・協調性 (76.9%)
- 第3位：実行力 (48.1%)
- 第4位：学び続ける力 (36.2%)
- 第5位：柔軟性 (18.4%)
- 第6位：倫理観 (10.9%)
- 第7位：精神力・忍耐力 (10.4%)
- 第8位：社会性 (8.2%)

また、「特に期待する能力」に関しては下記のような順になっています。

- 第1位：課題設定・解決能力 (80.1%)
- 第2位：論理的思考力 (72.1%)
- 第3位：創造力 (42.6%)
- 第4位：傾聴力 (35.9%)
- 第5位：発信力 (35.1%)
- 第6位：情報活用能力・データ分析力 (13.8%)
- 第7位：異文化理解力 (8.8%)
- 第8位：外国語能力 (4.5%)

Ⅲ 「カリキュラム・マネジメント」の具体的な取組に向けて

②「育成したい資質・能力」をどのように届出教育課程に位置付けるのか？



令和〇年度 教育課程について（届出）

このことについて、〇〇区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおり届けます。

- 【リード文要約】 これからの新しい時代、いわゆる「グローバル社会」に向けて、人と社会・自然環境等と協調しながら、たくましく生きていく児童を育成するため、次の通り、学校の教育目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を設定する。
- 1 教育目標
- (1) 学校の教育目標（重視する「育成を目指す資質・能力」）
- 【リード文要約】 これからの新しい時代、いわゆる「グローバル社会」において、人と社会・自然環境等と協調しながら、たくましく生きていくための資質・能力を育成するため、次の目標を設定する。
- ⑥ やさしく（やさしい心もち、自分も人も大切に）する児童：「**人間関係形成力**」
 - ⑦ かしこく（進んで学び考えながら、協働して課題に取り組む児童）：「**問題解決力**」
 - ⑧ たくましく（自分から心や体を鍛え、前向きに行動する児童）：「**実践力**」
- (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針
- 重視する資質・能力の育成を図り学校の教育目標を実現するために、次の基本方針を掲げ、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。
- ① 集団における協働を大切に、児童一人一人が自己の役割を自覚した活動体験を積み重ねるなかで、互いを尊重し合ったり、互いに高め合ったりする教育活動を充実する。
 - ② ……
 - ③ ……
 - ④ かしこく、「**問題解決力**」を育成するために
 - ① 各教科等において言語活動を重視するとともに、問題を主体的に把握し、自分で考え、友達と協働しながら問題解決を図る学習を推進する。
 - ② ……
 - ③ ……
 - ⑤ たくましく、「**実践力**」を育成するために
 - ① 健康・安全に関するめあてをもたせる活動の場の工夫を図り、児童が自らの健康・安全に関心を持ち、めあてに向かって主体的・継続的に実践する教育活動を充実する。
 - ② ……
 - ③ ……

Ⅲ 「カリキュラム・マネジメント」の具体的な取組に向けて

③「育てたい資質・能力」の育成に向けて、各教科等の指導においてどのように意図的・計画的に実践していくのか？



★届出教育課程に位置付けた「育成を目指す資質・能力」と年間指導計画との関連

【各教科等の年間指導計画】

「育成を目指す資質・能力」	国語	社会	算数	理科	…	特別の教科 道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動
人間関係形成力	単元					単元	単元		単元
問題解決力		単元	単元	単元				単元	
実践力					単元	単元		単元	単元

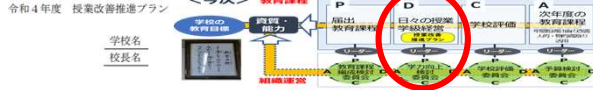
「資質・能力に関連のある各教科等の内容の整理と組織的な配列」
 ⇒平成28年度 多摩推の提言「これからの時代に求められる資質・能力の育成～カリキュラム・マネジメントを通して～」

できることから 各教科等の年間指導計画で、「育成を目指す資質・能力」を育てるために重点を置いて取り組む単元（題材）に“網掛け”をする（マーカーで色を塗る）。⇒ 全教員の息遣い

Ⅲ 「カリキュラム・マネジメント」の具体的な取組に向けて

③「育てたい資質・能力」の育成に向けて、各教科等の指導においてどのように意図的・計画的に実践していくのか？

【様式1】



学習指導要領 第1章 総則
第2 育課程の編成

学校の教育目標	
友だちがすぎ べんきょうがすぎ うんどうがすぎ 学校大すぎ ○○っ子	
学力に関する目指す児童像	
友だちの思いや考えを受けとめるとともに、自分の思いや考えを伝えられる子供の育成 ～正しい知識を基に考え、伝え合う、認め合う活動を通して～	
1 国語科	
目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力	
生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語に親しみ、理解することができる。語彙を立てて考えたことや、感じたり想像したりした思いを広げ、伝え合おうとする。	
学年	実施
低	児童は、ひらがなをきちんと理解し、たくさん 読書などに出てきた言葉に着目させ、別の文 の言葉に興味・関心をもちながら学習を進め る。3 算数科
中	児童は、ひらがなをきちんと理解し、たくさん 読書などに出てきた言葉に着目させ、別の文 の言葉に興味・関心をもちながら学習を進め る。3 算数科
高	児童は、ひらがなをきちんと理解し、たくさん 読書などに出てきた言葉に着目させ、別の文 の言葉に興味・関心をもちながら学習を進め る。3 算数科
3 算数科	
目指す児童像を基にした算数科での育成したい資質・能力	
数量、図形、グラフ等を理解し、計算や測定、作図等を行うことができる。目的に合った方法で考え、データを 活用して問題を解決しようとする。	
学年	実施
低	具体物を通して、数への概念を指導すること で、子供達はたし算やひき算の意味を十分に 理解することができた。ただし、個人差があり、 苦手な児童が数える。データを整理するこ とを6 音楽科
中	具体物を通して、数への概念を指導すること で、子供達はたし算やひき算の意味を十分に 理解することができた。ただし、個人差があり、 苦手な児童が数える。データを整理するこ とを6 音楽科
高	具体物を通して、数への概念を指導すること で、子供達はたし算やひき算の意味を十分に 理解することができた。ただし、個人差があり、 苦手な児童が数える。データを整理するこ とを6 音楽科
6 音楽科	
目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力	
音楽表現に必要な技能を身に付ける。自分の思いや意図を表現したり、音楽を味わって聴いたりすることが できる。	
学年	実施
低	対話に必要な知識・技能が十分に身に付いて いない。
中	自分の考えをもつことはできるが、一方的に 伝えるだけで、対話で負付いたり考えたりした ことを自分の中で深めるまでにならない。
高	自分の考えをもつことはできるが、一方的に 伝えるだけで、対話で負付いたり考えたりした ことを自分の中で深めるまでにならない。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 学習の基盤となる資質・能力の育成

- ⇒ (例) 言語能力
情報活用能力
問題発見・解決能力
人間関係形成力
計画・実行力 等

学習指導要領
で例示

(2) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成

- ⇒ (例) 健康・安全・食に関する力
主権者として求められる力
新たな価値を生み出す豊かな創造性
豊かなスポーツライフを実現する力 等

Ⅲ 「カリキュラムマネジメント」の具体的な取組に向けて

③「育てたい資質・能力」の実現に向けて、各教科等の指導においてどのように意図的・計画的に実践していくのか？

修学旅行 実施要項

<A中学校の具体的な取組>

1 全ての学校行事等の「目的」に自尊感情を高めるという視点を入れ、内容を工夫する。
◆ 全生徒から「自信をもてたか」というアンケートを実施して、各学校行事の成果の分析を図る。

(学校行事だけではなく)

2 普段の授業においても自尊感情を育む手立てを明らかにしていく。

- 目的
 - ・ 京都・奈良の歴史的建造物、文化遺産等を見学し、日本の歴史や文化の理解を深める。
 - ・ 事前準備を含むクラス別、班活動を通じて、問題解決に必要な情報収集、処理能力を身につけ、協調性や自主性、責任感を養成する。
 - ・ 集団行動を通し、友達同士の理解を深めよりよい人間関係を築き、中学校生活の良き思い出をつくる。
 - ・ 以上の活動を通して自尊感情を高め、自らの行動に自信が持てるようにさせる。

自尊感情を育てる手だて…事前学習、班活動、班行動、を通して協調性を深める。
計画の立案、係活動を通して自主性、責任感を高める。
体験学習の経験から感受性を育て、集団の価値観を高める。

2. 実施日 平成27年5月26日(火)～28日(木)

3. 場所 京都・奈良方面

Ⅲ 「カリキュラムマネジメント」の具体的な取組に向けて

③「育てたい資質・能力」の実現に向けて、各教科等の指導においてどのように意図的・計画的に実践していくのか？

<A中学校の具体的な取組>

1 全ての学校行事等の「目的」に自尊感情を高めるという視点を入れ、内容を工夫する。

◆ 全生徒から「自信をもてたか」というアンケートを実施して、各学校行事の成果の分析を図る。

(学校行事だけではなく)

2 普段の授業においても自尊感情を育む手立てを明らかにしていく。

単元名

Lesson 4 Field Trip NEW CROWN ENGLISH SERIES 1

(1) 本時の目標

- 言語活動に積極的に参加している。
- How many を含んだ会話を理解することができる。
- 教科書本文の会話を聞き、英語で理解することができる。
- 教科書本文を音声的な特徴を捉えて意味内容にふさわしく音読することができる。

*自尊感情を高める手立て

リスニングの後、生徒の理解度に応じてヒントを与え、英語で自ら答えを導き出すことによる達成感と、それに対する適切な評価で自尊感情を高める。

(2) 授業観察の視点

- 本時の目標を達成することができたか。
- ICT 機器を効果的に使用できていたか。
- 生徒の自尊感情を高めることができたか。
- 授業の流れがスムーズではなかったか。

(3) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
5分	挨拶をする。 <Warm-Up> ・ 今月の Song を歌う。 ・ 日付を確認する。 ・ 本時の学習内容を確認する。	・ 教師は楽しく大きな声で歌い、明るい授業の雰囲気づくりをする。 ・ 英語による言語活動への口慣らしをさせる。	
20分	新出文法導入 ・ How many を使った簡単なやり取り。 インフォメーションギャップを使った言語活動	・ 小学校外国語活動用教科書『Hi, friends! 1』の11ページの絵をプロジェクターで投影し数の教え方の確認をする。 ・ Activity シートを使い、mingle work を行う。 ・ 言語活動で使う質問等は暗記させる。	・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度 A: 会話例を見ずにやり取りができています。 B: 会話例を見ながらもやり取りができています。 C: ほとんどやり取りができていない。

Ⅲ 「カリキュラムマネジメント」の具体的な取組に向けて

④「育てたい資質・能力」の育成に向けた教育活動の取組をどのように評価し、改善につなげていくのか？



◆ 特別活動の取組を「資質・能力」の育成の視点から見直し、改善するPDCAサイクル



A小ミニキッズ活動⇒リーダー性の育成、人間関係形成力

これまで

A小(江戸川橋)→(電車)→地下鉄成増駅→(徒歩)→都立光が丘公園
・グループ別の遊び⇒弁当⇒集合写真撮影⇒帰校

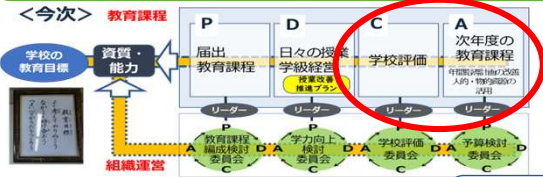
これから

A小→(徒歩)→目白台運動公園

・グループ別の遊び⇒弁当⇒オリエンテーリング⇒生活科木の実拾い⇒帰校

Ⅲ 「カリキュラムマネジメント」の具体的な取組に向けて

④「育てたい資質・能力」の育成に向けた教育活動の取組をどのように評価し、改善につなげていくのか？



【提出様式】 令和4年度 区立学校 学校評価

区立

領域	豊島区教育ビジョン2019基本方針等	評価番号	評価項目	児童・生徒 保護者									
				4	3	2	1	0	4	3	2	1	0
I	小学校から小学校・中学校への通学継続	I-1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。	31	35	13	0	27	5	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。			
			学校は、子どもの学力の着実・向上のために、分かりやすい指導を行っている。	52	43	1	2	6	4				
II	小さな学力の育成	II-2	学校は、ICTや機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。	54	43	7	1	1	5				
			学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をおこなって、正しい教養を尊重し合う温かい学校づくりを推進している。	47	52	4	1	2	4				
III	豊かな心の育成	III-2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。	58	40	8	0	2	9				
			学校は、子ども達の体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。	56	40	6	0	4	5				
IV	健やかな体の育成	IV-2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。	50	36	8	3	9	4				
			学校は、いじめ防止等(未然防止、早期発見、早期対応)に学校全体で細密に対応している。	45	33	14	0	14	2				
V	一人一人を大切にす教育の推進	V-2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。	33	46	9	2	16	4				
			学校は、特別な支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。	42	30	7	1	26	3				
			学校は、秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。	47	41	12	3	3	5				
VI	教師力の向上に努力する学校づくり	VI-2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。	46	46	6	0	8	3				
			学校は、学校や子ども達の様子や、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えていく。	63	34	5	1	0	3				
VII	家庭・地域との連携	VII-2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。	44	42	10	1	9	6				
			学校は、ISSへの取り組みに関する教育を推進している。	55	39	4	0	8	7				
IX	無方針改善	IX-1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を推進した業務分担等により、組織的に業務										

【概要】 令和4年度 教育課程について (届出)

このことについて、〇〇区立学校の管理運営に関する規程に基づき、下記のとおり届けます。

【キーワード】 これからの新しい時代、いわゆる「グローバル社会」において、人と社会・自然環境等と協調しながら、たくましく生きていくための資質・能力を育成するため、次の目標を設けます。

① 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)
 ② 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)
 ③ 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)

【教育目標】 学校の教育目標(達成する「育ちたい資質・能力」)

【教育課程】 これからの新しい時代、いわゆる「グローバル社会」において、人と社会・自然環境等と協調しながら、たくましく生きていくための資質・能力を育成するため、次の目標を設けます。

① 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)
 ② 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)
 ③ 心豊かに育ちたい心を、自分も人も大切に尊重する態度(人間関係形成力)

【学校評価】 学校の教育目標の達成に向けた取組を評価し、改善につなげていく。

【予算検討】 学校の教育目標の達成に向けた取組に必要な予算を確保し、効果的に活用する。

【組織運営】 学校の教育目標の達成に向けた取組を推進するために、次の基本方針を掲げ、教育課程・マネジメントの推進を図る。

① 無学における協力を大切に、児童一人一人が自己の役割を自覚した活動体験を積み重ねるなかで、互いを尊重し合ったり、互いに高め合ったりする教育活動を充実させる。

② ……

③ ……

④ ……

⑤ ……

⑥ ……

⑦ ……

⑧ ……

⑨ ……

⑩ ……

⑪ ……

⑫ ……

⑬ ……

⑭ ……

⑮ ……

⑯ ……

⑰ ……

⑱ ……

⑲ ……

⑳ ……

㉑ ……

㉒ ……

㉓ ……

㉔ ……

㉕ ……

㉖ ……

㉗ ……

㉘ ……

㉙ ……

㉚ ……

㉛ ……

㉜ ……

㉝ ……

㉞ ……

㉟ ……

㊱ ……

㊲ ……

㊳ ……

㊴ ……

㊵ ……

㊶ ……

㊷ ……

㊸ ……

㊹ ……

㊺ ……

㊻ ……

㊼ ……

㊽ ……

㊾ ……

㊿ ……

「育成したい資質・能力」の実現に向けた学校の取組はどうだったのか？

Ⅱ 資質・能力の育成と「カリキュラムマネジメント」

